

こんにちは、ふじみ薬局の高橋のぶとです。突然ですが私は新聞を読みません。テレビのニュースも朝になんともなく見るだけです。何故かと言いますと、私にはあまり必要ないからでしょう。その代わり、インターネットのニュースまとめサイトはちよくちよく見ています。で、それは何故かと言いますと、情報が早いのもありますが、テレビ新聞では取り上げない重要な出来事の記事が見れるのが大きいですね。

先日、思わず驚くニュースがありました。

それは、京都府の一部の小学校で給食の『パン・牛乳を廃止』する方向に動いているという記事です。どうやら『おばんざい』や煮物などの郷土料理を衰退させたくないという想いのもと、これらの料理にはパンはもちろん、牛乳も合わないからやめよう！ということらしいです。確かに、煮物に牛乳って気持ち悪いですものね(笑)。しかし、ひねくれ者の私はこれを見え瞬間、別の意図を勝手に感じていました。パンと牛乳は『食と健康の話』になると常連

と言っているほどよく出てくる問題の多い食品です。パンはショートニングやマーガリンと

いった体をサビさせるトランス脂肪酸が豊富、牛乳は胃腸やアレルギー疾患に良くないことはもちろん、体からミネラル(カルシウムやその他ミネラル)が減るとさえ言われていますよね。これらは既に私のような医療人でもなくとも、健康を気にする方には広く知られていることです。(それこそネットニュースにも多く出てきます)テレビの情報に絶対正しい、なんてのは遠い遠い昔の話になってしまいましたね。

【がんに対する有効な治療とは】



最近、**癌**を患う芸能人が増えているのをニュースでよく見かけますね。

2人に1人になる、とまで言われていますから当然と言えばそうですが。

以前にも話題になった近藤誠氏の言葉を借りるならば「ガンで死ぬのではなく、ガン治療によって殺されているのだ」といのはやはり一理あります。同氏の著書には「病院でガンと診断されているほとんどのガンはがんもどきであり、治療の必要はない。」とまで書かれています。

でも、やはりそればかりではなく、ガンによって命を落とす場合もあるわけです。でもでも、**西洋医学の3大治療(手術・放射線・抗がん剤)**にはやはり限界がある、というか**片手落ち**になっているのは事実です。

放射線や**抗がん剤**は「破壊」するのが目的です。でも、**副作用がとても強い**のが問題なのです。特に最近の抗がん剤の副作用は「**消化管(胃・小腸)障害**」が強烈です。これは何を意味するかというと、食べ物の消化はもちろん、最も大事な**栄養の吸収**に障害が起きることです。副作用が強い、という漠然とした認識の真実はあまりにも大きな負担なのです。

どんな薬にも言える事ですが「副作用が出なければ飲んで良い」というわけではないのです。やはり「必要な時に必要な量だけ」が原則です。抗がん剤に関しては『**最初の1回だけは博打のつもりでやってみるのも有りかもしれない**』とある医師が講演で仰っていました。これには私も賛成です。

さて、ガンを治療する際に考えなければいけないことはたくさんあります。ひとつは『**免疫を上げる**』だとか『**自然治癒力を上げる**』だとか言われています通り、自分の**体力氣力を高めることは絶対必要**でしょう。自然治癒力を上げる方法は**運動、温熱、食事(断食)、漢方薬**など多岐に渡ります。数ある手段の中で実践できそうなことをできるだけ多くやるのが良いでしょう。

しかしながら、昔から流行り廃りのある健康食品に対してはマユツバものという認識も強いですね。確かにインチキ商品もありますが、中には有効なものもあります。有効なものだとしても、やはり体質を見極めて選ぶのはもちろんのこと、その他の養生との組み合わせで相性がいいものを選ぶべきでしょう。

がんを治療するには ①体力をつける ②がん細胞の増殖を抑える この2つの柱のバランスが、とても大事です。①ばかりが目玉されがちですが、がん細胞は勢いが強いですから②を同時にやった方が良いと想います。

上述の3大治療は一見②のようですが、長い目で見ると違ってきます。(再発や転移のことを考えてみて下さい) もし、三大治療をやるならば①は絶対に必須ですね。病院での治療も体力が落ちてくると続けられなくなってしまいます。西洋医学的思考ではどうしても①を解決する方法が手薄です。ここはやはり薬局の得意分野です。ちなみに**漢方薬**(基本処方**は気仙と良塊仙**)は①にも②にも**有効な**ものがあります。

また、がんを患っている方の心持ちも治療の上でとても重要です。そこには家族の支えがとても大きいと想っています。お困りでしたらご相談ください。

＜喜びの声＞

A.S.さん(50代 女性)

・めまい

・花粉症(冷え・水毒タイプ)

※この記事の内容は本人の承諾を得た上での治療経過をまとめたものです。

以前、当店で皮膚のかゆみを漢方薬で治療。2月の下旬に突然『頭を傾けたり寝る姿勢をとった時』に『クラクラ〜』とめまいのような症状が起き、頭が『グワ〜ン』となり気持ち悪くなるとのこと。

春になって花粉症症状が少し出てきたこともあり、体内の水の発散がうまくできない状態に。その水毒によりめまいが出たと推測。問診や舌診、気功により症状を解消するための薬方を決定。

漢方薬 朝・夕食前

鳳水仙 朝食前

まず5日分を購入頂く。漢方薬の服用と併行し『耳石の位置を戻す運動』もやって頂く。

5日後に再来店。めまいを感じにくくなったとのこと。気功により状態を再チェックするとかなり改善されていましたが、まだ完全ではないのもう2週間飲んで頂くことに。以後めまいは起きていないとのこと。

★めまいは検査しても原因がはっきりしないことが多く、西洋薬で治りにくい疾患です。一方、漢方は症状と体質をみて原因を推測することができるので、漢方薬が早く効くことが多いようです。めまいは本人にしかわからない苦しみがあります。元氣になってよかったです!!